

■ 2019年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答の要約

ユナイテッド株式会社

2018年11月1日（木）に開催した、証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会において、出席者の皆様からいただいた主なご質問と、当社の回答を以下にまとめております。

質問	回答
----	----

アドテクノロジー事業について

Q1 売上総利益率の改善についてはどういった取り組みを行ったのか。また、今後何%程度の水準を目指すのか教えてほしい。

1Qから2Qにかけては「VidSpot」「adstir」の売上総利益率の改善による影響が大きい。

具体的には、「VidSpot」はこれまで動画広告枠の獲得を中心に先行投資を行ってきたが、アプリインストール広告領域に注力する中で「VidSpot」の成長戦略がクリアになってきたため、投資フェーズから利益率向上に戦略転換を図った。また、「adstir」は運用面の見直しが奏功したことにより、売上総利益率の改善につながった。

下半期の売上総利益率の水準に関しては、既存プロダクトの「Bypass」「VidSpot」「adstir」はしっかりと利益が出る見込みではあるものの、さらなる成長のために新規プロダクトへ一定の投資を見込んでいるため、上半期と同水準かそれよりもやや改善する見通しである。

中期経営計画関連について

Q2 重点戦略項目の「M&Aの積極化」について、今後の方向性を教えてほしい。

インターネットに関連する事業に関しては、絞り込みすぎずに幅広く検討していきたい。

規模感については、これまでのメインターゲットとしていたシード/アーリー期の企業（時価総額1桁億円程度、従業員数10~20名程度）に加えて、それ以上の規模でも当社とのシナジー効果で利益の改善が見込めるか、もしくは改善を行わなくても利益がしっかりと伸びている企業を新たにスコープに入れている。

M&Aはあくまで中期経営計画達成のための手段であり、M&Aを行うこと自体を目的としないように案件を選定していきたい。

Q3 仮想通貨関連事業への取組みについて、M&Aも考えているのか教えてほしい。

仮想通貨関連事業に関してはM&Aでの参入は今のところ考えていない。準備に関して前進をしていると認識している。

以上